

いざという時に“命を救うための知識と技術”を イベントを支える会社・従業員同士で共助体制 防災意識を高め・備える「上級救命講習」を実施

イベントの企画・運営・制作をおこなうバンセイ株式会社（本社：東京都豊島区、代表取締役社長：上田浩太郎以下、当社）は、8月6日(火)と23日(金)に、豊島区消防署にて、当社が事務局を務めるバンセイ安全衛生協会の会員5社と合同で「上級救命講習」を開催しました。

この講習は、9月1日の「防災の日」に合わせて実施され、非常時において適切かつ迅速な対応ができるよう学ぶことを目的としています。



今年は、元日に発生した能登半島地震に始まり、8月には気象庁から初の南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表されました。また、今年の夏は熱中症警戒アラートが過去最高を記録する地域が相次いでいます。いつ何が起こるか分からない昨今、一人ひとりの持続的な防災意識の向上が重要です。

当社は年間約1000件のイベントの対応を行っております。イベントに参加する方々の安全配慮義務の観点から、9月1日の「防災の日」に合わせ、従業員の防災意識を高めると同時に、会社同士で共助体制をつくるため、「上級救命講習」を実施しています。

35名が「上級救命講習」を受講イベントにおける安全対策と救急対応を学ぶ

安全衛生協会の会員5社の8名が受講したのは、公益財団法人東京防災救急協会が定める「上級救命講習」です。講習では、心肺蘇生法（CPR）や、自動体外式除細動器（AED）の使用法、外傷の手当や搬送法などを筆記・実技を通じて学びました。上級救命講習は、普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生

法、外傷の手当て、保温法、体位管理法、搬送法などより高度な応急手当の技術を学びます。

まず、心肺蘇生法（CPR）では、胸骨圧迫と人工呼吸の方法を学びました。実習用の人形を使用して、正しい圧迫の強度やテンポを確認しながら、実践的な技術を習得しました。成人の方のほか、乳幼児への心肺蘇生法も実践、適切な胸骨圧迫と人工呼吸の方法を習得し、年齢や体格に応じた対応方法を理解しました。

さらに、自動体外式除細動器（AED）の入れ方や電極パッドの貼り方などの使用方法を学び、使用時の注意点も確認。これにより、緊急時に適切に対応するスキルを身につけました。応急手当では、三角巾の使い方や傷の手当て方法を習得し、道具を使わずに傷病者を運ぶ方法や、毛布を使った搬送方法も実習しました。



講習の最後には、実習の成果を確認するための効果測定を行い、心肺蘇生の手順や AED の使用方法が正確に行えるかを確認。今回の講習を通じて、緊急時における救命率の向上や二次的な被害の防止に繋がるよう、参加者全員が実践的なスキルを身につけることができました。

“誰もが安心して楽しめるイベント環境”を目指して「上級救命講習」の重要性と今後の展開

バンセイ安全衛生協力は、安全衛生に関する計画、またその実施、作業における災害を防止し、災害発生にあたっては適切円滑な対処を講ずることを目的に、1982年に発足し、現在、イベント関連会社約100社が参画しています。緊急時の安全面と救急対策を強化するため、

「上級救命講習」は、バンセイ安全衛生協力の活動の一環として2015年より開始しました。

コロナ禍を経て、多くのイベントが再開される中、参加者の安全を確保するために救命技能が求められており、業界において「上級救命講習」の重要性がさらに増しています。特に多くの人々が集まるイベント会場では、乳幼児からお年寄りまで幅広い年齢層の方が参加するため、緊急事態や災害時、熱中症や心臓発作、転倒による怪我など、その時々に応じた対応能力や対策が求められています。また、イベントの裏側は多くの企業の連携・サポートで成り立っています。そのことから、「上級救命講習」を受けたスタッフを多く輩出することで、迅速かつ適切な対応が可能となり、イベントに参加する方々に安心感を提供できると確信し、取り組んでいます。

さらに今後は、本部のある関東だけでなく、イベント開催地域など、さまざまな場所でこの講習を実施していく予定です。バンセイ安全衛生協力の活動を通して、“業界全体で意識を高め、知識を身に付け、共助し合う体制”を構築して参ります。



(上) イベント会場設営 (下) イベント